

CCT ワークショップ 2016 開催案内

～石炭利用技術の実用化と国際競争力強化に向けた技術開発～

<CCT ワークショップ開催の背景と目的>

我が国の石炭関連業界は、これまで石炭の安定供給と環境調和型の石炭利用技術の開発を推進してきました。東日本大震災に起因するエネルギー需給構造の変化、新興国を中心に今後も増大する世界石炭需要等、石炭を取り巻く情勢が大きく変化する中で、従来にも増してこれらの活動が重要となっています。特に、昨年の気候変動枠組条約第 21 回締約国会議（COP21）を契機に地球温暖化ガス排出削減に対する関心が高まるなか、石炭の負のイメージを払拭すべく、石炭利用の意義や温暖化ガス排出削減への対応を定量的に示すことが一層重要になってきました。

一昨年公表されたエネルギー基本計画において、「石炭は安定性・経済性に優れたベース電源であり、環境負荷を低減しつつ（高効率火力発電技術の利用等）活用していく」と記述されており、2030 年の電源構成（ベストミックス）案においても重要な役割を担うことが期待されています。

そのため、石炭ガス化複合発電（IGCC）や次世代超々臨界圧石炭火力（A-USC）、石炭ガス化燃料電池複合発電（IGFC）など、我が国の最先端技術を用いて石炭の徹底した高効率利用を進めると共に、バイオマス利用の拡大や二酸化炭素を分離・回収し地中に隔離する CCS 等により、排出を限りなくゼロに近づけるゼロエミッション化など、石炭における地球温暖化対策への継続的取り組みが求められています。

これらの技術の実用化をどのように進めていき、どの時点で社会実装が見込まれるかを議論すること、優れた日本の CCT を海外にどのように展開し、世界の環境対策に貢献していくか、また、埋蔵量が多いものの商業利用が拡大しない低品位炭について、どのように課題を解決し、最適な利用を実現していくかなどを議論することは、今後の技術開発の方向性を見極めるために重要と考えられます。

さて、JCOAL は賛助会員の皆様の協力の下、今後の石炭利用技術の方向性を示すべく、二酸化炭素削減に対する CCT の貢献度の定量化を検討し、JCOAL CCT ロードマップを一部改訂いたしました。今後の我が国 CCT の技術優位を維持・向上させながら、広く世界に展開し、環境対策に貢献し低炭素社会を構築するための開発課題の抽出と課題解決策の具体化を図るために、石炭技術の専門家を集め議論を行う場として、CCT ワークショップ 2016 を開催します。

1. 主催

一般財団法人石炭エネルギーセンター（JCOAL）

2. 日時

平成 28 年 7 月 19 日（火） 13：30 － 17：15 セッション I 及び II
7 月 20 日（水） 9：30 － 16：40 セッション III～V
16：40 － 17：00 総括セッション

3. 場所

発明会館 地下ホール
東京都港区虎ノ門 2-9-14 (<http://hatsumeikaikan.com>)

4. 後援

経済産業省

5. 意見交換会

発明会館 7 階
平成 28 年 7 月 19 日（火） 17：30－19：00 会費 5,000 円

6. 参加申込み方法

JCOAL web site に掲載

<CCT ワークショップ 2016 プログラム> (当日までに変更が出る場合があります)

7月19日(火)

(13:30-13:40)

開会挨拶 JCOAL

(13:40-13:45)

ワークショップ進め方説明

(13:45-15:45)

セッションⅠ『高効率発電及びバイオマス混焼によるCO₂排出削減』

高効率発電技術開発の現状と見通し、混焼に利用できるバイオマス量や混焼率向上に向けた取り組み等について。

モデレーター：電力中央研究所 エネルギー技術研究所 火力運用保守領域
副研究参事 白井 裕三 氏

- ・電力中央研究所 石炭火力発電における高効率発電技術
- ・高効率発電システム研究所 A-USC
- ・大崎クールジェン IGCC
- ・日本バイオマスエネルギー協会他 バイオマス調達
- ・IHI 他 混焼率向上に向けた取り組み

(15:45-17:15)

セッションⅡ『石炭バリューチェーン』

選炭、輸送、貯炭、脱硝、脱硫、集塵、排水、石炭灰処理といった種々の分野について、海外プラントにおける日本の技術の活用・貢献について。

モデレーター：出光興産 石炭事業部 石炭・環境研究所長 山下 亨 氏

- ・JCOAL 選炭
- ・MHPS 排ガス処理
- ・栗田工業 排水処理
- ・電力中央研究所 石炭灰処理
- ・JCOAL 石炭火力建設における Public acceptance

(17:30-19:00)

意見交換会

7月20日(水)

(9:30-12:00)

セッションⅢ『CO₂分離技術とCCUS』

各種回収技術の現状、CCS試験状況、微細藻類によるCO₂利用に関する現状について確認し、実用化への見通し、スケジュール、課題等を議論。

モデレーター：電源開発 技術開発部長 笹津 浩司 氏

- ・火力発電所からのCO₂回収技術

川崎重工業 固体ソルベント

RITE 膜分離

IHI アミン回収、Oxy-fuel

- ・ CCS 開発状況
 - 日本 CCS 調査 苫小牧試験状況
 - GCCSI 海外の CCS
- ・ 微細藻類による CO₂利用
 - ユーグレナ
 - デンソー
 - 電源開発

(13:00-14:30)

セッションIV 『インド・中国市場への展開』

経営環境（経済の停滞等）、環境規制の強化（環境保全への対応必須）のなか、日本の CCT 技術の当該国への展開について議論。

モデレーター：九州大学大学院 経済学研究院 准教授 堀井 伸浩 氏

- ・ MHPS
- ・ 横河電機
- ・ 双日
- ・ JCOAL

(14:30-16:40)

セッションV 『低品位炭利用』

技術の現状、低品位炭の資源量・価格を踏まえ、早期実用化に向けた技術課題、利用場所等について議論。

モデレーター：IHI エンジニアリング・プラントセクター 技師長 氣駕 尚志 氏

- ・ 住友重機械工業 CFBC
- ・ JGC JCF
- ・ 宇部興産 改質
- ・ エネ総工研 ASCC
- ・ 川崎重工業 水素チェーン
- ・ 神戸製鋼所 UBC
- ・ 九州環境管理協会 自然発熱
- ・ JCOAL 資源量、価格等

(16:40-17:00)

総括セッション

モデレーター：九州大学名誉教授 持田 勲 氏

(17:00)

閉会挨拶 JCOAL

以上

